

# 一宮教会 典礼研修会 1

教会生活基本のキ

「ようこそ、名古屋教区へ」



# ようこそ、カトリック名古屋教区へ

名古屋教区は、愛知県、岐阜県、福井県、石川県、富山県のカトリック教会をテリトリーにしています。

名古屋教区にはフィリピン、韓国、ブラジル、ペルーなどの大勢の外国籍信徒がいます。ここ10年ほどはベトナムからの研修生の信徒も多くなりました。

一宮教会はベトナム語のミサを毎月第1日曜日午後2時から、タガログ語のミサを毎月第4日曜日午後5時から行っています。こうしたミサは小教区の聖堂を間借りして、外国籍信徒が自分たちだけの共同体のミサをしているわけではありません。

あくまでも一宮小教区を構成するメンバーとして共に活動することが前提になっています。

ところで、2003年にカトリック名古屋教区は、教区の信徒と司牧者用の手引きを作成しましたが、2020年に改訂版を出しました。

ベトナム語版の手引きはまだありませんが、神言会のディエム神父様が翻訳中です。

この手引きには、秘跡についての心得もありますので、典礼研修会で最初に取り上げることにしました。



# 所属教会

1. 日本では所属教会制度を設けています。信徒は自分の所属する教会共同体のメンバーとして、教会を支え、活動をする責任があります。
2. 洗礼を受けた教会を本籍のある教会とすれば、今、所属する教会は住民登録のある教会ということになります。各教会の洗礼台帳には、堅信、結婚などの記録が記載されます。台帳は安全で鍵のかかる書庫に保存することになっています。
3. 引っ越しなどで、所属教会から、新しい教会に異動する場合は、手続きが必要です。詳しくは主任司祭か、事務局にお尋ねください。主日のミサは都合で他の教会に行くこともありますが、信徒は特定の教会共同体に所属する必要があります。



## ミサ献金と教会維持費



1. かつてはミサの奉納行列で、人々は大地の恵み、労働の実りである作物などを奉納しました。現在では、奉納のときに袋や籠などで集めた献金を祭壇に奉納します。
2. 教会維持費は、教会費、月定献金と呼ばれます。教会の建物や活動、司祭生活費を支えるために毎月一定額を封筒に入れて献金します。名古屋教区では自分の収入の3%を目安にしています。
3. 信者は所属する教会共同体のメンバーとして、教会を支え、活動する責任があります。

# ミサ

1. 主日のミサはキリスト教徒にとって最も大切な礼拝です。初代教会の頃からキリスト信者は主イエス・キリストが復活した日を**主の日**と呼び、聖書を読み、パンを裂いて共に分かちあってきました。
2. 所属教会以外でもミサにあずかることができます。ただし、**子どもの洗礼、結婚、堅信**などの秘跡を望む場合には、特定の教会に所属する必要があります。
3. **ミサに参加することで小さな罪は赦されます**。重大な罪を犯していると思う場合には、ゆるしの秘跡を受けましょう。



# 成人のキリスト教入信式

1. 大人のキリスト教入信式では、**洗礼・堅信・聖体の三つの秘跡が順を追って授けられます。**
  2. 洗礼志願者は入信の秘跡によって神の恵みに答える新しい生活を始め、それを祝う受洗者も信仰を深めます。
  3. 入信の秘跡で洗礼志願者は教会共同体に入ります。**「父と子と聖霊の名による」洗礼はプロテスタントの洗礼であってもカトリック教会で受け入れられます。**
  4. 入信の秘跡は私たちが聖霊による神の住まい、神の子とします。
  5. 入信の秘跡によって私たちはキリストの死と復活にあずかります
- **洗礼は一連のプロセスの中で理解される必要があります。まだ信じていなかったときに神の呼びかけを聴き、教会を訪ね、祈りと探求の後に、洗礼を決意し、洗礼前のカテケージスを受け、入信の秘跡を会衆の面前で祝い、神のいのちと教会生活の中に参入しますが、入信の秘跡以後も、神への旅路は続いていきます。この旅路の目標は神と出会い、神のいのちの中で生きることです。**

# 子どもの洗礼

1. 生まれた子どもに洗礼を授け、神の子どもとして、教会共同体の信仰のなかで子どもを育てる習慣が、初代教会から行われてきました。
2. 幼児洗礼で大切なことは、先ず親が信仰生活を行い、子どもの信仰教育をすることです。代父母の役割も大切です。
3. 子どもの洗礼にあたっては主任司祭と打ち合わせてください。洗礼申込書が必要です。
4. 洗礼に先立ち、信者の親が洗礼準備講座に参加することが必要です。
5. 幼児洗礼も私的な洗礼ではなく、教会共同体への加入という意味もあります。大人の洗礼と同様に、主日のミサのなかで行う必要があります。
6. 洗礼は教会の洗礼台帳に記載されます。将来堅信や結婚をするときに必要になりますので、自分が受洗した教会を忘れないようにしましょう。



# 子どもの教育

## 1. 家庭での祈り

家庭で子どもと共に祈ることが大切です。幼児のときから、寝る前の祈りや食卓での祈りを子どもと共に行ってください。いつも私たちの側にイエス・キリストがおられることを思い起こしてください。

## 2. 教会学校

子どもが小学生になったら、所属教会の「教会学校」に参加させてください。

中学生になると学校教育やクラブ活動に割かれる時間が増えてきますが、教会で友だちが見つかりと学校とは違う仲間を得ることになります。

子どもとよく話し合うなど、子ども自身が信仰を深め、教会共同体のなかで喜びを見出せるように配慮してください。



# 子どもの初聖体

- 「典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る源泉である。」（「典礼憲章第10条」）

## 初聖体の時期

「理性の働きを有するようになってから、ふさわしい準備をして聖体を受けます。通常、初聖体の前にゆるしの秘跡（初告白）を受けます。」

## 初聖体の準備

自分の所属教会の「教会学校」や「信仰を子どもに伝えるさまざまな場」で子どもの理解力に応じた準備が必要です。一宮教会は原則として教会学校で初聖体の準備をしています。



# 堅信

「堅信の秘跡によって信者はいっそう完全に教会と結合され、聖霊の特別な力で強められて、キリストの真の証人としてことばと行いをもって、信仰を広めかつ擁護するよう、いっそう強く義務づけられます」（「カトリック教会のカテキズム」より）。

## 堅信の時期

日本では、自己の信仰が識別できる年齢に達してから堅信を受けます。現在、一宮教会では、中学生たちが堅信の準備も含めてキリスト教について学んでいます。

## 堅信の準備

堅信を受けるためには信仰について学ぶなどの準備が必要です。堅信を受けていない大人も準備講座に出席し学ぶ必要があります。主任司祭に相談してください。

## 堅信式

名古屋教区では通常幼児洗礼を受けた子供には司教が堅信を授けます。子どもの堅信に併せて大人の堅信を行うこともあります。堅信式の日程は主任司祭が司教と調整の上、決定します。



# 結婚式

## 1. 所属教会の司祭に相談する

教会で結婚を希望する場合、主任司祭に相談してください。

## 2. 書類を整える

主任司祭と面談の上、結婚をすることが決まれば、「結婚申込書」に必要事項を記入して提出してください。主任司祭は結婚式のための必要な書類(結婚のための洗礼証明書など)の請求を受洗教会にします。外国籍の方も同じ手続きが必要です。

## 3. 結婚講座を受ける

結婚式の前にお二人で「結婚講座」を修了することが必要です。

## 4. 当事者の二人でよく話し合ってください

カトリック教会は、一度神と教会の前で結婚の誓いを立てると、その絆は生涯説かれることはないと教えています。非受洗者との結婚の場合にはあらかじめ相手の方の理解を求めることが大切です。また国際結婚の場合には文化や生活習慣、家族観の相違などを理解し尊重しあうことが大切です。

## 5. 再婚の場合は手続きが必要です

結婚当事者が再婚の場合は手続きが必要です。主任司祭が手続きを名古屋教区に申請し、完了後、結婚式となります。



# 秘跡台帳

- 教会の秘跡にはミサや赦しの秘跡など何度でも受けることのできるものもありますが、一回しか受けることのできないものもあります。
- そのうち**洗礼台帳**はいわば**戸籍簿**とも言うべきもので、洗礼を受けた後**堅信**や**結婚**、**死亡**のデータが書き込まれます。別な教会で堅信や結婚をしても洗礼台帳のある教会に連絡をすることになっています。
- また、小教区の台帳類は年に一度教区本部の文書保存庫にコピーを送り、保存します。ベトナムやフィリピンで洗礼を受けていても、同じように通知をすることが義務づけられています。



# ゆるしの秘跡

- 1.カトリック教会には「すべての信者は、分別の年齢に至った後は、重大な罪を少なくとも一年に一回、忠実に告白する」規定があります。
- 2.どこの教会でも秘跡を受けることができます。最近、多くの教会では四旬節や待降節にミサの中で共同回心式を行い、その際個別のゆるしの秘跡を受ける機会があります。また、個人的に黙想会などに参加して受けることもできます。
- 3.あらかじめ予約して対話形式でゆるしの秘跡を受けることもできます。
- 4.自分の言語でゆるしの秘跡を受けたい方は主任司祭に問い合わせてください。一宮教会ではヴェトナム語、タガログ語、英語、韓国語でゆるしの秘跡を受けることができます。

# 病者の塗油

1. 教会が病人のケアをリスト自身に仕える。教会が「ほうぼうを巡り歩するとき、その神秘体の苦しむメンバーにおいてキいて人々を助け、すべての人たちをいやされた」主・イエスの模範に従う時、教会は病人のケアをしなさいという彼の命令に従う（マルコ 16:18 参照）。
  2. 教会は、健康状態の悪い人たちを訪ねるだけでなく、塗油の秘跡を通して彼らを力づけ、病気の時や死の危険にさらされている時にはエウカリスチアで彼らを育てることによってもこの配慮を示す。最後に、教会は、特に最後の人生の危機において、彼らを神に委ねる病人のための祈りをささげる。
- 一宮教会では定期的に病人・高齢者の聖体拝領を行っています。希望者は教会事務所までご連絡ください。必要であれば病者の塗油も行えるよう準備しています。



# 臨終の洗礼

- 1.臨終に際して、**本人の望みがあれば**臨終の洗礼を授けることができます。
- 2.時間的な余裕があれば司祭を呼ぶこともできます。
- 3.緊急の場合は、司祭でなくても洗礼を授けることができます。**「私は父と子と聖霊の御名によってあなたに洗礼を授けます」と言って水を額に注ぎます。**その後、教会の司祭に洗礼を受けた人の名前、場所などを報告してください。
- 4.臨終でなくても高齢者の場合、緊急洗礼を授けることもできます。主任司祭にご相談ください。



# 葬儀

## 1. 死の準備

病気や事故などで死の危険が迫っているときには所属教会、もしくは近くの教会の司祭に連絡してください。聖体、病者の塗油、ゆるしの秘跡、相談などを依頼できます。

## 2. 死亡した場合

信者が亡くなった場合、主任司祭に連絡し、相談してください。主任司祭は、教会の葬儀をよく知っている葬儀社に連絡をし、納棺式・葬儀の手配をします。自宅などで亡くなった場合もまず主任司祭に連絡してください。日程が決まれば、信徒代表、葬儀委員に連絡します。

## 3. 日本では

日本では通夜、葬儀(告別式)の後、火葬が行われ、少し日数をおいて納骨します。一宮教会では新型コロナウイルス感染症対策のため、通夜は行わず、家族、親族による納棺式と葬儀・告別式を行っています。

## 3. 遺体を母国に持ち帰りたい場合

亡くなった方の家族、親戚、親しい友人などで話し合ったうえで、主任司祭に相談してください。また、在日大使館に連絡をとり、遺体を母国に送るための手続きなどを相談してください。**遺体を母国に搬送する場合、高額な輸送費がかかります**のでご注意ください。



# まとめ

- 一宮教会ではコロナ禍の中で、教会活動が制限される中、工夫しながら礼拝や典礼を行っています。
- 典礼について学ぶ前に、私たちが教会の仲間を大切にしているのか、もう一度ふり返りましょう。
- 神学者のオズボーンは、メンバーがお互いを尊重し合わない共同体には感謝の祭儀は存在しないとさえいっています。
- 教会で集まり、聖書のことばを読み、ご聖体にあずかることが、私たちの信仰生活の励みになることを願っています。

